

浄土三部經  
『無量壽經』  
『觀無量壽經』  
『阿彌陀經』

- 1, 十夜法要とは 正式には「十日十夜法要」 または  
「十日十夜別時念仏法要」  
阿彌陀如来の本願成就をおよろこびする法要  
①総願（四弘誓願）  
②別願（四十八願）

「此において善を修すること十日十夜すれば他方諸仏の国土に於いて善を修すること千歳するに勝れたり」（『無量壽經』）

諸悪莫作 衆善奉行 自浄其意 是諸仏教 （七仏通戒偈）

- 2, お十夜をおつとめする我々の心構えは  
①阿彌陀仏、そして天地の恵みに対する感謝  
②ご先祖様へのご供養  
③自分自身の極楽浄土への往生  
そういう心をもって「南無阿彌陀仏」とお唱えすることが大切

「設し我れ仏を得たらんに、十方の衆生、至心に信樂して我が国に生ぜんと欲し乃至十念せんに、若し生ぜずんば正覺をとらじ」（『無量壽經』）

- 3, 「南無阿彌陀仏」の意味  
南無…帰依・帰命。すべてを捧げます、すべてを任せます、の意  
阿彌陀仏…無量壽（限りない命・時間）、無量光（限りない光・空間）

- 4, 縁起…どのような「もの」も、単独で存在しているのではなく、必ず他に依存して存在している、つまり直接、間接の原因や条件によって存在している、という在り方の法則のこと。（因縁生起の略）

- 5, 『嫌われる勇気』（アドラー心理学）に説かれる共同体感覚  
家庭や学校、職場、地域社会だけでなく、たとえば国家や人類などを包括したすべてであり、時間軸においては過去から未来までも含まれるし、さらには動植物や無生物まで含まれる

- 6, 幸せになるために